

私立大学研究ブランディング事業
「エコ農業ブランディングによる発展的地域創成モデルの形成」
令和元年度研究中間報告

課題7 タマネギ外皮を利用した化粧品の開発

担当者：金沢 功

■令和元年度（最終年度）の達成目標

タマネギ外皮由来のケルセチンを利用した化粧品の製造を依頼し、石けん、ローション、消毒液等の商品の完成を目指す。

■令和元年度（最終年度）の進捗状況（9月末時点）

<化粧品の商品化>

昨年度報告した化粧品の原料のケルセチン組成物の抽出効率が高かった業者が、抽出価格を当初の4倍まで上げてきたことにより化粧品原料価格が高騰し、製品化が困難になることが明らかとなった。そこで、昨年度の予定を変更して、(株)常盤植物化学研究所にケルセチン組成物の抽出を依頼することにした。最終的に、材料から化粧品までのプロセスは、①タマネギ外皮を池田糖化工業(株)で洗浄と粉末化を行い、②(株)常盤植物化学研究所でケルセチン組成物を抽出する、③抽出したケルセチン組成物をバイオコープ・ジャパン(株)を介して専門業者にて化粧品等の商品化を依頼することに決まった。

製品化に成功したものは、ハンドクリーンジェル、クレンジングジェル、石鹸、ミルクローション、ケルセチン含有加工食品（サプリメント）の5品である。写真参照（左順）。

